



研究主任（道徳教育推進教師）

暑い暑いと思っていましたが、秋分の日を境に急に秋らしくなってきました。運動会の練習も残りわずか、渡子小最後の運動会です。児童一人一人が「やりきった！楽しかった！」と言えるものにしたいですね。応援の仕方、競技への臨み方、地域の方々への対応の仕方など、道徳的実践力をつけるよい機会でもあります。児童の心も体もより輝くものにしたいですね。

さて、今回は、先日行われた高橋先生の授業について、古本指導主事先生がご指導くださったことをまとめました。

第6回校内研修での学び

【第6回校内研修 1年生 親切な心で『はしのうえのオオカミ』

2—(2) 思いやり・親切 東京書籍】

指導講話：古本 由利 指導主事

ねらいを達成するための発問づくり（解説編 p87参照）

発問は、児童の思考や話し合いを深める重要な鍵。

ねらいを達成するためには、すでに資料の選択から始まっている。児童の実態に合わせて改作するくらいの意識がほしい。）さらに、資料の分析をしっかりとしておく。

・ねらいを達成するために

→中心発問をつくる

→中心発問をより効果的に活用していくための基本発問（2～3つ）

→補助発問は考えておくべき（思考を深めるために）

切り返し・ゆさぶり発問は準備しておく

★児童を意欲的にする発問

①児童の実態に即している発問

②多様な価値感や考え方ができる発問

③何を問うているかが明確な発問

④自分のこととして考えられる発問

⑤誰にでも答えられるような発問（導入におもに使用）

【発問の例】

事実・経験・場面・状況・心情・考えや理由・関連や判断・予想・原則

＋（プラス）

児童の反応を生かしながら問う（切り返し・ゆさぶり）

自分を見つめ振り返らせるために問う（展開後段）

本時のまとめを問う（価値によってちがうが）

★発問の視点

☆発問の視点①(導入)

明るい雰囲気大切に。答えやすい発問を。

☆発問の視点②(展開)

→答えが多様になる自由度のある発問。

→基本発問を精選，児童の発言を幅広くする発問。

→主人公に身をおいて考えさせ，共感を促す発問。

→発問に見通しを持たせて，必然性のある共感的発問。

(一人の人物によりそいながら)

☆発問の視点③(終末)

→各自の今までの体験に目を向けさせる。決意をもとめない。

今後の予定

10月12日 2年生 研究授業
『おばあちゃんのお手玉』

校長先生・教頭先生による授業観察が始まりました。多少の緊張はありますが、第三者に授業を定期的に見てもらい、気づきを言ってもらうことで長年行ってきた癖を直したり、新しい授業の形について考えたりする機会となります。授業力アップだ！とプラス思考で取り組めるといいですね。

